2022.03 ver.1.2

希少がんリーフレット

国立がん研究センター
希少がんセンター

胸腺腫・胸腺がん

（きょうせんしゅ・きょうせんがん）

https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/thymoma/index.html

※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

胸腺について

胸部の左右の肺の間に挟まれる部分を縦隔と呼びます。胸腺は縦隔の上（上縦隔）かつ前（前縦隔）の方で、胸骨の裏側にあります。胸腺は免疫と関係のある役割を担っています。血液中には免疫を担当する細胞が何種類もありますが、胸腺と関わりがあるのは主にＴ細胞です。一般に、骨の中（骨髄）で作られたリンパ球は、成熟したＴ細胞に変化していきます。そのときに、自分の細胞を、間違えて外部の細胞と認識して攻撃することがないように教育されます。胸腺はＴ細胞にこの教育をするところです。

疫学について

胸腺腫・胸腺がんは 30 歳以上（とくに 40 歳から 70 歳）に発症します。男女差はありません。胸腺腫は人口 10 万人あたり 0.44 から 0.68 人が罹患すると言われており、まれな疾患です。胸腺がんはさらにまれと言われています。

症状について

胸腺腫・胸腺がんは周囲の組織に直接影響を与えるほど大きくならない限りは無症状です。50%の患者さんで症状がない状況で見つかるとも言われています。

診断について

胸腺のある場所にできる腫瘍はいろいろな種類があるので、どのような腫瘍かを診断する必要があります。具体的には、皮膚を通して針で腫瘍をとったり、手術で塊としてとったりします。この検体を顕微鏡でみて（病理検査）、胸腺腫（タイプが複数あります）、胸腺がんなどと診断をします。画像検査（胸部レントゲン、CT、MRI、FDG-PET など）は病気の広がりを確認することにも用います。

治療について

胸腺腫・・・胸腺がんと比べて、進行が遅く、周囲の臓器への影響が出にくいです。早期に見つかり、手術治療を受ける機会も多いです。胸郭内に複数個あり、完治できない（すべてを完全には除去できない）場合にも、可能な限り手術や放射線治療をして腫瘍を小さくすることもあります。

胸腺がん・・・胸腺腫よりもデータが少ないですが、可能な場合は手術や放射線治療をします。全身に拡がる、放射線や手術ができない場合には、抗がん剤（細胞傷害性抗がん薬や分子標的薬） による治療をします。

希少がんセンター https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/index.html

希少がんセンター Facebook

希少がんに関する動画一覧